

出雲キャンパス

平成21年度 公立大学法人島根県立大学
地域連携推進センター出雲キャンパス運営会議 名簿

職 名	氏 名	備 考
教 授	石橋 照子	・地域連携推進センター副センター長 ・地域連携コーディネーター(地域文化貢献活動)
教 授	平野 文子	・地域連携推進委員会委員 ・地域連携コーディネーター(地域振興・地域交流)
准教授	落合 のり子	・地域連携推進委員会委員
講 師	狩野 鈴子	・地域連携推進委員会委員 ・地域連携コーディネーター(受託/共同研究)
講 師	別所 史恵	・地域連携推進委員会委員 ・地域連携コーディネーター(リカレント講座)
助 手	渡部 真紀	・地域連携推進委員会委員
助 手	坂根 可奈子	・地域連携推進委員会委員
管理課長	恩田 晴夫	・オブザーバー
主 幹	上代 勇夫	・オブザーバー(特別研究費)
主 任	阪本 功	・地域連携コーディネーター(施設見学)
主 事	植田 晃次	・地域連携推進委員会委員 ・地域連携コーディネーター(学生の地域貢献活動)

出雲キャンパス活動報告

地域連携推進センター副センター長 石橋照子

1. 地域との連携

昨年までの地域開放事業に関するワーキンググループの検討をふまえ、連携活動をより円滑にすすめるため、今年度より地域連携推進委員が地域連携コーディネーターとして地域からの相談窓口を担当するようにした。

(1) 地域文化貢献活動に関すること

目的：地域の学習ニーズに対応し、地域文化の発展に貢献する。

概要：セミナー・フォーラム・研修会等の講師派遣の相談に応じる。

担当：石橋照子

(2) リカレント講座に関すること

目的：看護者の継続教育および生涯学習の企画・実施により看護実践の向上に貢献する。

概要：セミナー・フォーラム・研修会等の講師派遣や看護研究指導の相談に応じる。

担当：別所史恵

(3) 受託／共同研究に関すること

目的：研究開発プロジェクトへの積極的参画と研究成果等の社会に還元し情報発信を行う。

概要：受託研究・共同研究の相談に応じる。

担当：狩野鈴子

(4) 地域振興・地域交流に関すること

目的：民間企業・行政機関との連携による地域振興・地域交流を図る。

概要：地域活性化に向けた受託事業，共同事業の相談に応じる。

担当：平野文子

(5) 学生による地域貢献活動に関すること

目的：①学生の地域活動への関心を高め、人間的成長を図る，②地域と大学の連携を強化する

概要：ボランティア活動や研修への学生参加について相談に応じる。

担当：植田晃次

(6) 大学の設備・施設の活用および視察／見学等に関すること

目的：①地域活動に施設や設備の貸出し，地域貢献を図る，②本学の魅力や特徴を紹介する

概要：施設・備品等貸出施設見学，体験学習等の相談に応じる。

担当：阪本功

これらの窓口業務を実施し地域との連携を推進するために、各担当では様々な工夫を行った。

- ・ 地域文化貢献活動では、出雲キャンパスモニター制度を企画し、次年度より地域との交流を推進していく計画にしている。
- ・ リカレント講座では、各教員から「出前講座一覧表」にテーマを求め、ホームページに掲載した。専門職からのニーズをふまえ次年度公開講座と共にリカレント講座を企画した。
- ・ 受託／共同研究に関することでは、受託研究等の依頼があった際に対応できるように「受託研究等取り扱い要領」を整備した。
- ・ 学生による地域貢献活動に関することでは、学生によるボランティアマイレージ制度を考案し、次年度より実施し、学生による地域貢献活動を促進していく予定である。

2. 公開講座・高大連携講座・キャンパス連携講座

1) 公開講座の基本的な考え方

本学が持っている専門的、総合的な教育・研究機能を広く社会に開放することにより、看護に関する知識・技術および一般的教養を身につけるための学習の機会を社会人等に広く提供する。

2) 高大連携講座についての基本的な考え方

高校教育と大学教育の円滑な連携を目指し、本学が持っている専門的、総合的な教育・研究機能に関心を持ってもらうために高校に出向いて講義を行う。このことにより、看護や本学の魅力を高校生に伝えると共に、高校生や高校側のニーズを把握する。

3) 公開講座実施要領

- (1) テーマ：「にんげん大好き 一まめに暮らしていくために」
- (2) 講座内容：看護に関するもの、語学、一般教養など
- (3) 受講対象：一般、看護職者、高校生
- (4) 講座形式：単独テーマ、シリーズテーマ
- (5) 開催回数：1回または複数回
- (6) 開催時期：6月～10月、高校は4月以降
- (7) 開催場所：本学、その他県内、高校
- (8) 開催時間：本学の場合は9:00～21:00とする。但し、学外の場合は当該施設と相談すること。
- (9) 開催方法：
 - ① 原則として担当教員が運営するが、求めに応じて地域連携推進委員会（事務局）が支援する。
 - ② 助手も協力者として企画に参加できる。

- ③ 公開講座の参加申し込みの受付は事務局が行う。応募を受け付けられない事態については担当教員が申込者に通知する。高大連携講座については担当教員が高校担当者と連絡をとり行う。
- ④ 高大連携講座は地域連携推進委員会とアドミッション運営会議が連携して行う。広報は地域連携推進委員会が担当し、高校との交渉はアドミッション運営会議が担当する。
- ⑤ 客員教授にも公開講座に参加していただくこともある。
- ⑥ 修了証書は講座の担当教員が発行の有無を決定し、準備する。
- ⑦ 手話通訳・託児の希望者の受け入れは担当教員の判断により決定し、手配は担当教員が行う。

4) 公開講座実施概要

第1講座

開催日時：6月2日 13:10～14:40

場 所：本学・208 講義室

演 題：英語で読む『ナースが贈るこころのチキンスープ』

講 師：田中芳文

受講者：15名

概 要：進学のために英語を勉強する必要がある学生ばかりなので、全員熱心に予習をしてきた。

第2講座

開講日時：Ⅰ：6月26日 17:30～19:00, Ⅱ：7月24日 17:30～19:00

Ⅲ：8月21日 16:00～17:30, Ⅳ：9月17日 14:00～15:30

Ⅴ：10月30日 15:00～16:30

場 所：本学・215 実習室

演 題：模擬患者（SP）養成講座

講 師：松本玄智江, 吉川洋子, 山下一也

受講者：Ⅰ：7名, Ⅱ：9名, Ⅲ：8名, Ⅳ：7名, Ⅴ：5名

概 要：5回にわたって講座を開催し、「患者対応、患者の視点での医療サービスを提供する上で、模擬患者の役割は大切なことだと感じた。」「学習の機会を設けて欲しい」「初めて患者を演じ、多くのものを得ることができた」等の感想が寄せられた。

第3講座

開講日時：Ⅰ：8月25日 14:00～16:00, Ⅱ：9月1日 14:00～16:00

場 所：本学・215 実習室

演 題：アロマで心と身体のリフレッシュ Part. 4

講 師：松本亥智江，松岡文子

受 講 者：Ⅰ：18名，Ⅱ：17名

概 要：2回開催し、「バスフィズが手軽にできることがわかり，プレゼント用にも作ってみたいと思った」「思ったより簡単にできリフレッシュできた」「このような身体も心もいきいきできる講座をお願いします」などの感想が寄せられた。

第4講座

開講日時：9月3日，9月4日 10:00～16:00

場 所：本学・202 209 講義室

演 題：やる気の出る臨床看護研究

講 師：吾郷美奈恵，石橋照子，梶谷みゆき

受 講 者：26名

概 要：松江から益田まで島根県内から26名の看護師の方が参加した。講義，演習を通して「役立った」「研究をしてみたいとやる気が出た」「後輩の支援ができそう」といった感想が寄せられた。

第5講座

開講日時：9月4日 13:30～15:30

場 所：本学・201 講義室

演 題：楽しく学ぶ自己表現

講 師：落合のり子

参 加 者：4名

概 要：熱心に受講され，「人間関係を良くするのに身近で役立つ内容だった。」

「自分の自己表現に関する疑問を解消できた。」等の感想が寄せられた。

第6講座

開講日時：9月11日 10:00～12:00

場 所：本学・215 実習室

演 題：腎不全患者の看護・透析療法の基本的理解

講 師：別所史恵

参 加 者：8名

概 要：講義内容自体は分かりやすかったとの反応であった。実際に JMS の業者も交えて CAPD のデモンストレーションを行ない，バック交換を行なえたのでより分かりやすかった。

第7講座

開講日時：9月11日 13:30～15:30

場 所：本学・215 実習室

演 題：人工呼吸器装着患者の基本的看護

講 師：三島三代子

参加者：9名

概 要：新人看護師を対象に、人工呼吸器の仕組みから呼吸パターンの理解、生体への影響、主な合併症、患者の安全を守るための管理などについて基本的なところから丁寧に説明した。呼吸は人間の生命をつかさどるもので、専門分野の看護師のみならず、すべての看護職者に必要な知識であり、今後も広めていきたい。

第8講座

開講日時：Ⅰ：8月8日 13:30～15:00、Ⅱ：8月21日 19:00～21:00

Ⅲ：8月29日 13:30～15:00

場 所：Ⅰ：いずも子育て支援センター、Ⅱ：本学・103 実習室

Ⅲ：出雲中央図書館

演 題：すこやか子育て

Ⅰ：赤ちゃんとお母さんのコミュニケーションタイム

Ⅱ：らくらく分娩期の過ごし方・沐浴を体験してみましよう

Ⅲ：子どもが病気になったとき～子どもによく見られる症状の看護～

講 師：Ⅰ：長島玲子，井上千晶

Ⅱ：狩野鈴子，濱村美和子，駒沢彩

Ⅲ：高橋恵美子，渡部真紀

参加者：Ⅰ：10名，Ⅱ：3名，Ⅲ：0名

概 要：子育て中もしくは予定者の参加があり、「分かりやすい内容であった」「ベビー・マッサージも骨盤底ケアも家で続けていけそう」「あっとホームな感じで過ごしやすかった」等の感想が寄せられた。

第9講座

開講日時：8月29日 13:30～15:30

場 所：社会福祉法人ふあっと 地域交流ホーム「つどい」

演 題：壮年期の健康づくり～楽しく運動を続けるために～

講 師：伊藤智子，加藤真紀

参加者：8名

概 要：受講者からは「運動は続けることが大事」「職場や地域でみんなと一緒にやるとできると思う」「楽しく運動ができた」などの感想が寄せられた。

第10講座

開講日時：Ⅰ：9月8日 13:30～15:30、Ⅱ：9月16日 13:30～15:30

場 所：Ⅰ：北浜コミュニティセンター Ⅱ：塩津漁民センター

演 題：老後の健康作り

講 師：山下一也，松本亥智江，松岡文子，田原和美，祝原あゆみ

参加者：Ⅰ：28名，Ⅱ：11名

概要：受講者からは「病気がたくさんあるので時々参加したい」「意義ある講座でとても楽しく学ばせて頂いた」「地区全体で受けるとよい」「また来て欲しい」等の感想が寄せられた。

第11講座

開講日時：9月11日 13:30～15:30

場所：川本町すこやかセンター

演題：高齢者のための認知症ケア最前線と転倒予防法

講師：山下一也，松本玄智江，橋本道男（島根大学医学部）

参加者：25名

概要：受講者からは「楽しかった」「ズンドコ体操を習いたかった」「2か月に1回あるとよい」「個別案内が望ましい」「大変参考になった」「家庭でも毎日続けていこうと思う」等の感想が寄せられた。

第12講座

開講日時：9月26日 13:00～15:00

場所：隠岐島文化会館2階集会室

演題：自分流 気楽な介護の提案

講師：吾郷ゆかり，祝原あゆみ

参加者：30名

概要：隠岐島町役場 ふれあいセンター2階会議室にて開催した。介護保険制度についての学習のあと，居宅サービスや便利グッズを紹介したり，福祉用具を利用して気楽に介護を続けられる方法について実演した。参加者からは「これからの介護の参考になりました」感想が寄せられた。

5) 高大連携講座概要

高大連携事業の一環として，高校教育と大学教育の円滑な接続を目指し，本学が持っている専門的，総合的な教育・研究機能を高校に出向いて講義を行った。

第1回

開催日時：7月23日 13:40～15:10

場所：平田高校

演題：看護師をめざす高校生のための言語と文化講座

講師：田中芳文

参加者：29名（生徒），1名（教員）

概要：看護系だけでなく，言語・英語系学部を志望する1年生から3年生までの生徒約30名が，医療分野に特有な言語表現やその背景文化について，海外小説やノンフィクションからの実例を題材に学んだ。

第2回

開催日時：8月19日

場 所：平田高校

演 題：がん患者の看護ーがんとともに生きるー

講 師：平野文子

参加者：26名

概 要：看護系志望の生徒たちが、がんとともに生きる患者さんの声には、「がん対策基本法」の制定や島根県の「がんサロン」の誕生など、国・行政をも動かす大きな力があり、その力を活かした看護が可能であることを学んだ。

第3回

開催日時：8月22日 13:30～15:00

場 所：浜田高校

演 題：看護の道具箱 ～コミュニケーション～

講 師：吉川洋子

参加者：14名

概 要：看護系志望の生徒たちが、看護を实践するうえで重要となるコミュニケーションの技術について、講義だけでなく参加者同士での体験や実例を通して学んだ。

第4回

開催日時：9月17日

場 所：出雲高校

演 題：Ⅰ：認知症の予防

Ⅱ：認知症患者の理解とケア

講 師：Ⅰ：山下一也 Ⅱ：梶谷みゆき

参加者：26名（生徒）、1名（教員）

概 要：アルツハイマー病の原因を知るとともに、その予防の可能性について、特に食生活について詳しく学んだ。また、アルツハイマー病患者であるクリスティン・ボーデンさんの闘病記や臨床で出会う患者さんたち達の姿から、認知症患者さんの体験世界を学ぶとともに、認知症患者さんの尊厳を守りながらどのように生活をサポートすべきかを一緒に考えた。

第5回

開催日時：9月26日

場 所：大社高校

演 題：医療の最前線 特に脳科学

講 師：山下一也

参加者：20名

概要：看護系志望の生徒たちが、「脳科学の医療の最前線」をテーマに、MRI（核磁気共鳴画像法）などについて学んだ。

第6回

開催日時：9月29日

場所：大社高校

演題：出生直後の新生児の診断とケア

講師：濱村美和子

参加者：33名

概要：看護系志望の生徒（2年生）が、出生直後の新生児の身体変化について理解するとともに、観察方法やケアのポイントについて演習を通して学んだ。

第7回

開催日時：10月8日

場所：島根中央高校

演題：地域に育てられ地域で活かす看護

講師：齋藤茂子

参加者：76名（生徒）、5名（教員）

概要：1年生約90名が、総合学習の時間を活用して、地域の特性や出来事について関心をもち、地元の良さを見つけ出すことの重要性を学んだ。

6) キャンパス連携講座

第1回

開催日時：5月30日 13:30～16:00

場所：松江キャンパス 体育館1F研修室

演題：妊娠中の家族のために

講師：三島みどり・籠橋有紀子（松江キャンパス）

第2回

開催日時：6月6日 13:30～16:00

場所：松江キャンパス 体育館1F研修室

演題：お年寄りの家族のために

講師：福澤陽一郎・名和田清子（松江キャンパス）

第3回

開催日時：6月20日 13:30～16:00

場所：松江キャンパス 体育館1F研修室

演題：働き盛りの家族のために

講師：山下一也・岸本 強（松江キャンパス）

第4回

開催日時：7月4日 13:30～16:00

場 所：松江キャンパス 2号館1F臨床栄養実習室

演 題：育ち盛りの家族のために

講 師：高橋恵美子・福井一尊（松江キャンパス）

7) 今後の課題

昨年度に比べ受講者数が80名減少しており、年々減少傾向である。新規受講者の開拓と継続受講者の確保のため、送付先の見直しやPR活動の工夫など広報戦略の建て直し、受講者のニーズに沿った講座メニューの再考、より多くの人に受講機会をもってもらうため本学以外の会場を増やす、ホームページに開催様子を積極的に掲載していくなど対策が必要である。

また本学の単独開催だけでなく、大学(キャンパス)間の連携、市行政事業との連携、県看護協会との連携で公開講座を企画するなど、他機関との連携やタイアップも積極的に行っていく必要がある。

次年度も、高校教育と大学教育の円滑な接続を目指し、本学が持っている専門的、総合的な教育・研究機能を高校に出向いて講義を行う予定にしている。また、看護や本学の魅力を高校生に伝えると共に、高校生や高校側のニーズの把握をめざす。

3. 出前講座

今年度途中より、出前講座一覧表を提示し、今年度は下記の出前講座が実現した。

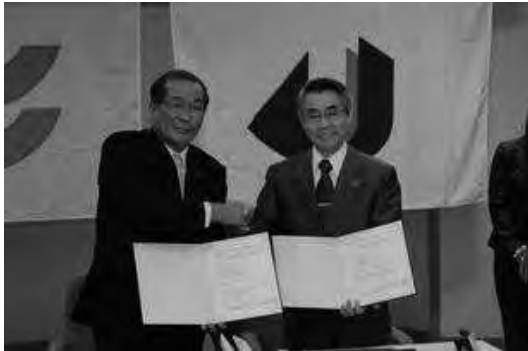
8月25日 出雲市平田町『平田楽園クラブ連合会』の在宅介護講習会

出雲市平田町にある自主グループ『平田楽園クラブ連合会』より、在宅介護講習会の要望があり、伊藤智子准教授および加藤助手により出前講座を実施した。当日は約20名の参加者があり、実技を交えた講習を楽しく受講された。

4. 自治体等との連携

1) 出雲市との連携

出雲市とは従来から深いつながりのもと、介護予防教室共同事業の実施や各種審議会委員への参画を行ってきたが、平成21年10月に包括的な連携協力協定を締結した。この協定により大学と市がさらに連携協力し各種事業を展開することとなった。



握手を交わす市長と理事長



調印式の様子

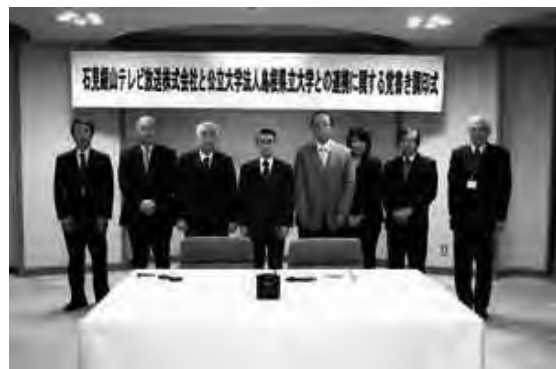
2) 石見銀山テレビ放送株式会社との連携

平成 22 年 2 月 4 日に公立大学法人島根県立大学と石見銀山テレビ放送株式会社との間に連携に関する覚書が締結された。

今回の覚書き締結により今後、島根県立大学短期大学部出雲キャンパスの出前講座の収録・放送が行われ、平成 22 年 4 月以降に『健やかに老いるために一食すること、出すこと、動くこと、楽しむことー』のテーマで 10 講座の番組が放送される予定である。



本田理事長(本学)と杉谷代表取締役(銀山テレビ)



調印式の様子

3) その他の連携

【出雲産業見本市 2009 への出展】

出雲市及び「21世紀出雲産業見本市」実行委員会が主催、島根県立大学短期大学部(出雲キャンパス)等の後援で「出雲産業見本市2009」が平成21年11月7日～8日に開催された。この企画は、企業相互あるいは市民と企業とのコミュニケーションを深めるとともに、ビジネスチャレンジの拡大を図ることが目的である。

本学からは、文部科学省「質の高い大学教育推進プログラム(教育GP)」で開発した『eポートフォリオによる自己教育力の育成』が出展し、研究成果の紹介を行った。

■ 本学の出展内容

文部科学省「質の高い大学教育推進プログラム（教育GP）」で開発した『eポートフォリオによる自己教育力の育成』の紹介（パネル展示、配付資料）



【青年海外協力隊員帰国報告会の開催】

JICA および島根県環境生活部文化国際課との連携により、1月20日に「青年海外協力隊員帰国報告会」を開催した。本キャンパス学生・教職員をはじめ、浜田キャンパスの学生など40名が参加した。

今回帰国報告をされたのは、出雲市出身で理学療法士の太田千香さんで、平成19年9月から平成21年9月までの2年間、中央アジアのキルギス共和国での活動を報告された。現地では、障害をもつ児童の施設で、現地人にリハビリ技術の指導を行い、現地では行われていない『運動療法』の普及のための技術指導に力を注がれた。

日本との文化の違いや現地の伝統楽器の演奏、また、リハビリテーションをはじめ医療・看護の現状などを実際の体験をもとにわかりやすくお話しいただいた。参加者からも「日本の中の医療の中からのみだけの目線では見えなかったものを見ることができた。私たちは限られた場所で物事を見ていると思えた。リハビリテーションや障害や人権など世界は一樣ではないことを改めて感じる事ができた。」「青年海外協力隊への一步を踏み出すための後押しになった。」などの感想が寄せられた。

5. 学生の地域貢献

1) 航空機事故救難訓練への参加

9月10日、早朝出雲空港において実施された航空機事故救難訓練に、出雲キャンパスから学生及び職員が要救護者役としてボランティアで参加した。「右大腿部を骨折し、変形・腫張の症状がみられる患者」の役を演じた看護学科1年の袖本 栞さんの感想：「今回はこのような貴重な体験をさせていただき感謝しています。トリアージの仕方などを間近で見ることができてとても勉強になりました。航空機事故のような大災害の現場では、冷静な

判断・行動が患者の生死を左右することを痛感しました。大混乱のなかでも可能な限り患者の痛みや不安を和らげるのが救護者の役割だと感じました」

「両下肢骨折(開放性)で呼吸数 26, ゆさぶりでかろうじて開眼, 足が痛いと弱々しく痛みを訴える患者」の役を演じた看護学科2年生佐々木奈美さんの感想:「私はトリアージで最も急いで搬送される赤色の札をつけられましたが, 搬送を待つ間は不安でしたので, さらに後で搬送される黄色や緑色の患者は不安でたまらないだろうと感じました。このような災害に遭遇すると非常にとまどうと思いますが, 今回このような経験をさせていただきとても勉強になりました。今後は, 緊急時における人のパニック状態や, コミュニケーションの重要性, そのような場面でも生かせる看護の知識と技術をもっと身につけていこうと思います」

「自分で歩ける程度の腰部に痛みがある患者」の役を演じた看護学科1年の三谷紗也佳さんの感想:「トリアージのやり方や, 救急隊員・消防士・医師・看護師が人命を救うためにあわただしく動いている現場を実際に見ることができ, 貴重な体験ができました。重症の患者を優先的に治療することと同時に, たとえ軽症の患者でも不安にさせたり, 寒い中で症状が悪化することが無いよう気を配ったりすることが重要であると感じました」



写真提供: 出雲空港管理事務所

2) 「がん対策募金活動」にボランティアとして参加

11月1日に松江市営陸上競技場で行われた「がん対策募金」の活動に出雲キャンパス学生が参加した。

看護学科2年吉田真弓さんの感想

「今回初めてがん対策街頭ボランティア活動に参加させていただき, とてもいい経験になりました。当日は大雨でしたが, 声かけをすると, 皆さん快く募金に協力して下さりとても嬉しく思いました。また, 難病研究所や松江市立病院のがんサロンの方々とともに, とても充実した時間を過ごすことができました。次の機会もぜひ参加させていただきたいと思います。」

看護学科2年太田亜住さんの感想

「当日は雨風が強く、足場が悪いにもかかわらず、たくさんの方が立ち止まって、がん対策募金に協力をしてくださいました。地元の方々だけでなく、県外から来ておられる方も数多くおられ、そういった方々の募金に対する積極的な行動に感動しました。なかには、二度も足を運んで募金に協力して下さった高校生もおられました。街頭での募金活動は私にとってとても良き学びの経験です。今後もまたこういった募金活動にも積極的に参加していきたいと思いました。」

看護学科2年月森彩世さんの感想

「今回がん対策募金のボランティアに参加して、小さな子どもから大人まで多くの方々の優しさに感動しました。みなさんひとりひとりの気持ちがこれからのがん対策に大きな力となることを心から願っています。また、今回の体験でがんのことをもっと多くの人に知ってもらいたいと思うようになりました。とても貴重な体験をさせていただき、難病研究所の方々に心から感謝しています。また機会があれば参加したいと思います」



写真提供：(財)島根難病研究所

■出雲市受託事業

出雲キャンパスでは、包括連携協定を締結した出雲市と共同事業を平成 19 年度から継続して行っている。平成 21 年度は出雲市上岡田町上岡田地区において介護予防教室事業を行った。

この事業の特徴は、「1. 地域のネットワークを活用する」、「2. 上岡田地区に合わせた介護予防プログラムを開発する教室を展開することにより、参加高齢者のニーズ把握、スタッフの育成に重点をおいた事業」である。

今年度の介護予防教室事業（上岡田なごみ会）には、高齢者 13 名とボランティアグループ 8 名、他に地区スタッフ 19 名、市の職員 6 名、出雲キャンパス 8 名が参加し、協働で行った。

回想法とミニ講話を交互に行う 18 回の介護予防教室（事前調査・事後調査を含む）と、回想法とレクレーションを内容とした研修会を 2 回実施した。そのうち 1 回は、見学を兼ねて出雲キャンパスでも実施した。教室では毎回、教員が開発した体操とメディカルチェックを行った。また、開始時には地元説明会、終了時に地元報告会を行った。

（詳細については平成 21 年度「上岡田なごみ会」報告書に掲載している。）



ミニ講話； 脳のトレーニングに挑戦中



回想法



メディカルチェック

■特色 GP：健康まつり

出雲キャンパスでは、平成 19 年度に文部科学省の「特色ある大学教育支援プログラム」に「地域に広がる新しい看護ニーズに応える教育」が採択され取り組みを実施してきた。

この取り組みの一環として平成 22 年 3 月 14 日に NPO 法人出雲スポーツ振興 21 とともに、出雲健康公園クラブハウス利用者 100 万人達成記念イベントと併せて「健康まつり」を開催した。

この事業の目的は、「学生・大学と地域とのつながりを強化し、地域の人々と共に健康について考える」ことであり、特に「地域の方々と共に企画・運営することにより連携の強化を図る」、「企画を通し、地域住民の方々の健康についての意識を高める」ことを目標とした。

当日は「血圧測定」、体組成測定、骨密度測定、「血管年齢測定」などの健康チェック及び健康相談と特別講師の三浦弘氏による講演「楽脳フィットネス～脳を活性化させて認知症予防を～」が行われ、のべ 100 名以上の住民が参加した。

(詳細については平成 21 年度特色 GP 報告書に掲載している。)



学生による血圧測定の様子



三浦弘氏による特別講演